

公益財団法人 中辻創智社
第 11 期（2025 年度）事業報告書
（2025 年 4 月 1 日—2026 年 3 月 31 日）

I. 概要

当法人は 2015 年の設立以来、学術と科学技術の健全な発展を願い、社会と次世代を担う若者を支援することを目的に、研究奨励部門として「研究費助成公募」「会議開催費助成公募」、人材育成部門として「理系出身者への法科大学院奨学金」「困難な状況にある子ども達への学習支援」の 4 事業を実施してきた。これらの事業では、自然環境保全を担う基礎生物学のうち研究継続が困難な状況にある研究課題に対する研究費助成、文系及び理系学術分野の勉強会やシンポジウム等に対する会議開催費の助成、理系分野の学問的背景を有する法科大学院生への給付型奨学金、子ども食堂や子どもの居場所に学習支援機能を付与するための助成を展開している。上記事業の財源は、基本財産及び特定資産の運用益を用いている。

2025 年度は、

- (1) 公益財団法人移行後の法人運営体制の強化と安定を図る。
 - (2) 現在実施している助成公募事業を継続し発展させる。
- の 2 つの基本方針に基づき法人を運営し、助成事業を実施した。

当法人は主たる事務所を京都市中京区麩屋町通夷川上る笹屋町 459 番地に定め、定款に従い以下の役員等で構成される。

役職	氏名	常勤・非常勤の別	職務・現職
代表理事	中辻憲夫	非常勤	京都大学名誉教授（理学博士）
業務執行理事	細川美穂子	常勤	職務統括（事務局長兼務）（医学博士）・人材育成選考委員会委員長
理事	長谷川博	非常勤	東邦大学名誉教授・研究奨励選考委員会委員長
理事	藤本一郎	非常勤	弁護士法人創知法律事務所代表弁護士

監事	新居誠一郎	非常勤	新居合同税理士事務所所長・税理士
評議員	饗庭一博	非常勤	元京都大学准教授（理学博士）
評議員	門田真	非常勤	信州大学バイオメディカル研究所・医学部再生医科学教室講師（医師・医学博士）
評議員	加納圭	非常勤	滋賀大学教育学部教授（生命科学博士）
評議員	迫田さやか	非常勤	同志社大学経済学部准教授（経済学博士）
評議員	中馬新一郎	非常勤	京都大学医生物学研究所准教授（獣医師・理学博士）
評議員	中辻孝子	非常勤	元東海大学教授（医学博士）
評議員	仲屋麻希子	非常勤	フリーライター、同志社女子大学非常勤講師
評議員	西川輝昭	非常勤	名古屋大学名誉教授（理学博士）

職員は常勤1名（業務執行理事兼務）、非常勤1名（週1日）の計2名で業務にあたった。

II. 公益目的事業の実施状況（公益目的事業1）

(1) 研究奨励部門

A. 研究費助成公募（定款第4条に定める事業(1)）

自然環境保全を担う生物学領域の中心分野について、研究継続が困難な状況にある研究課題を対象とした研究費助成公募を下記の通り実施した。

【公募期間】

2025年4月7日～6月10日

【公募方法】

当財団ウェブページ掲載、ポータルサイト登録（JSTサイエンスポータル、助成財団センター助成情報ナビ）、全国の国立大学及び主要博物館並びに主要対象分野の学会（日本動物学会、日本植物学会、日本生態学会、日本分類学会連合）への周知依頼により公募を行った。

【募集件数】

100万円助成課題の募集件数17件（予算額1700万円）
50万円助成課題は募集せず

【申請件数】

36件

【選考方法】

研究費助成公募選考要項に従い研究奨励選考委員による採点の上、合議制の選考会を2025年7月12日に開催し採択課題を決定した。

【選考結果】

18件を採択
（うち16件100万円、次点の2件は80万円）

【助成総額】

1,760万円

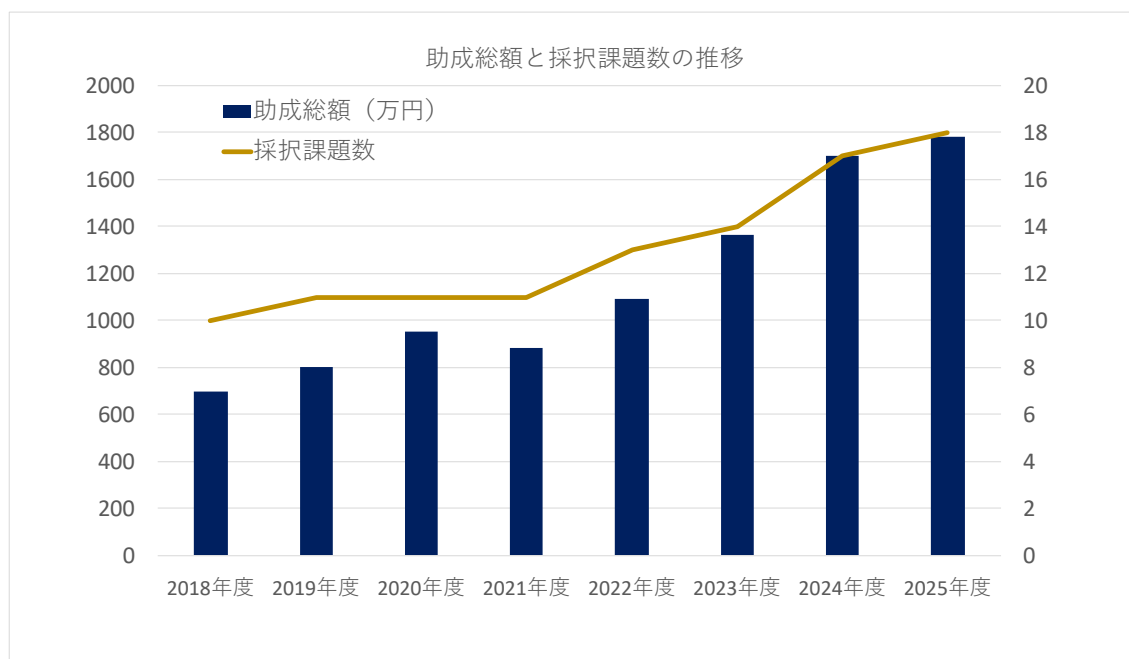
研究費助成公募の採択課題は下記の通りである。

100万円助成課題（18件）

氏名	所属	職位	研究課題名
川瀬裕司	千葉県立中央博物館分館海の博物館	主任上席研究員	南房総から温帯性魚類が消滅する？－黒潮大蛇行による繁殖魚種の変化
石原慎矢	日本獣医生命科学大学	講師	鳥骨鶏の黒色形質に関連する内在性レトロウイルスとTYR遺伝子-潜在的な調節メカニズムの探索
相原隆貴	筑波大学生命環境系	研究員	高山に広がったダケカンバの倍数化の歴史から探る植物の極限環境への適応
成川恵	東洋大学 食環境科学部 食環境科学科	助教	炭素資源循環に関わる新奇微生物の分類・代謝・生態的機能の解明
田中源吾	熊本大学・くまもと水循環・減災研究教育センター・沿岸環境部門	准教授	驚異の保存を示す中枢神経系の化石を用いたカンブリア紀の微小節足動物の系統復元
鈴井佳南子	東京大学	特任研究員	浮遊性多毛類の繁殖戦略と鉛直分布：海洋生態系における役割の再評価
川津一隆	横浜国立大学・大学院環境情報研究院	准教授	制御理論と非線形時系列解析の融合による可制御キーストーンの創発メカニズム解明
細石真吾	九州大学熱帯農学研究センター	助教	アリ植物オオバギ属の共生アリ再考：輪郭形状とDNA解析から迫る隠蔽種とミニチュア化の解明
小林大雅	大阪公立大学	特任助教	寄生虫の掃除を行わないホンソメワケベラ個体群における掃除共生関係の実態の解明
榎浩平	広島大学大学院統合生命研究科	研究員	シロアリの社会環境に依存した兵隊分化にかかわるエンハンサーの網羅的同定と遺伝子発現制御機構の解明
寺井章人	琵琶湖博物館	主任主査	琵琶湖魚類生態系をささえる動物プランクトンの被食動態の調査
中島圭介	広島大学両生類研究センター	助教	新たな発想に基づく無尾両生類変態における尾部退縮機構の解明
井上慎太郎	徳島大学	特任助教	体色多様化機構解明と在来種保全を目指したハムシ科昆虫のゲノム機能研究
青山剛士	名古屋大学・ITbM・ライブイメージングセンター	研究員	オーキシンの細胞内動態とシグナル伝達を繋ぐ新展開
戸金大	慶應義塾大学	准教授	年齢構造解析とゲノムワイド解析によるヤエヤマハラブチガエル個体群の保全優先度の選定
松本可南子	徳島文理大学薬学部	助教	森林に共生する放線菌の多様性とその役割～森林保全に寄与する生態系の保護～
カミスイルサイドアイマン	佐賀大学農学部	助教	花に生息する“隠れた”タマバエ類の超越した多様性とその生態系機能の解明
土岐和多瑠	東海国立大学機構名古屋大学	講師	ハナカミキリ－酵母共生系が枯死木の分解に与える影響

研究費助成公募状況の推移は次の通りである。

	2018年度 第1期	2019年度 第2期	2020年度 第3期	2021年度 第4期	2022年度 第5期	2023年度 第6期	2024年度 第7期	2025年度 第8期
申請総数	40	30	30	36	32	41	37	36
採択総数	10	11	11	11	13	14	17	18
採択率	25.00%	36.70%	36.70%	30.56%	40.62%	34.15%	45.95%	50.00%
助成総額	700万円	800万円	950万円	885万円	1090.2万円	1362.9万円	1700万円	1780万円



2025年度はこれまでの採択課題から8件の論文発表の報告があった。

氏名	所属	採択年度	発表論文
信澤 岳	広島大学大学院統合生命科学研究科 附属植物遺伝子保管実験施設	2019年度	Structural Coloration and Epicuticular Wax Properties of the Distinctive Glaucous Leaves of <i>Encephalartos horridus</i> . <i>J Exp Bot.</i> 2025 Mar 12:eraf115.
中村 玄	東京海洋大学 学術研究院 海洋環境科学部門 鯨類学研究室	2023年度	Citizen Science Illuminates a City-Dwelling Whale: A Report on the Large Aggregation of Narrow-Ridged Finless Porpoises in Tokyo Bay, Japan. <i>Fishes</i> 2025, 10(5), 237
佐藤 幸恵	筑波大学生命環境系/山岳科学センター	2023年度	Secondary contact zone and genetic introgression in closely related haplodiploid social spider mites. <i>Heredity</i> , 133. 2024-08. p. 227- 237.
柴田 あかり	北海道大学地球環境科学研究院	2023年度	Contributions of diurnal and nocturnal visitors to pollen dispersal, paternity diversity and fruit set in an early- blooming shrub, <i>Daphne jezoensis</i> . <i>American Journal of Botany</i> 110: 1-11, August, 2023
柴田 あかり	北海道大学地球環境科学研究院	2023年度	Nocturnal moth pollination in an alpine orchid, <i>Platanthera tipuloides</i> . <i>Plant Species Biology</i> 40: 16-25, August, 2024
大塚 海	東京理科大学創域理工学部	2023年度	KRAB zinc-finger proteins regulate endogenous retroviruses to sculpt germline transcriptomes and genome evolution. <i>Genome Res.</i> 2025 Mar 12;35(3):417-31.
石澤 秀紘	兵庫県立大学大学院工学研究科	2022年度	Duckweed as an Emerging Model System for Plant-Microbiome Interactions. <i>Environ Microbiol.</i> 2025 Sep;27(9):e70181
栗田 和紀	千葉県立保健医療大学	2022年度	A Taxonomic Revision of the Barbour's Blue-tailed Skink <i>Plestiodon barbouri</i> (Reptilia: Squamata: Scincidae), With Descriptions of Three New Species. <i>Species Diversity</i> 30(2): 259-287

B. 会議開催費助成公募事業（定款第4条に定める事業(3)）

文系・理系を問わず、学術・科学技術の振興を目的とした会議開催費助成公募を下記の通り実施した。

【公募期間】

開催まで1年未満の会議について申請を通年で随時受付

【公募方法】

当財団ウェブページ掲載、ポータルサイト登録（JSTサイエンスポータル及び助成財団センター助成情報ナビ）により公募を行った。

【募集件数】

年間30件程度（予算額900万円）

【申請件数】

175件

【選考方法】

申請受理日に応じて年3回の審査を行った。会議開催費助成公募選考要項に従い研究奨励選考委員による採点の上、選考委員による合議制の審査会（いずれもメール会議）において採択課題を決定した。

【採択件数】

62件

【助成総額】

1,216万円

採択会議は下記の通りである。

採択会議名	主催団体	採択金額
第19回東北糖鎖研究会	東北糖鎖研究会	20万円
RNAフロンティアミーティング2025	RNAフロンティアミーティング	20万円
第57回若手ペプチド夏の勉強会	日本ペプチド学会	20万円
生物リズム若手研究者の集い2025	時間生物学会若手の会	25万円

第 31 回小型魚類研究会	第 31 回小型魚類研究会開催事務局	25 万円
第 65 回 生命科学夏の学校	生化学若い研究者の会	25 万円
第 56 回構造有機化学 若手の会 夏の学校	構造有機化学若手の会 (京都大学大学院工学研究科 生越研究室)	25 万円
筑波会議 2025 セッション 9 : 法と隣接分野の〈対話〉	筑波大学 / 京都文教大学	17.5 万円
酵母研究若手の会 第 11 回研究会	酵母研究若手の会	20 万円
経営史学博士スプリングスクール	経営史学博士スプリングスクール実行委員会	17.5 万円
第 2 回 東海 進化生態発生 研究会合宿	進化生態発生研究会 実行委員会	20 万円
生命情報科学若手の会 第 17 回年会	生命情報科学若手の会	25 万円
アメリカ経済史研究会「『分断』とその『緩和』のアメリカ史」研究会シリーズ	アメリカ経済史研究会	17.5 万円
第 3 回 JAMIT 若手医用画像工学シンポジウム: SAMIT2025	一般社団法人 日本医用画像工学会	20 万円
2025 年度ニホンザル研究セミナー	ニホンザル研究セミナー実行委員会	20 万円
第 3 回細胞生物コロキウム	細胞生物若手の会	20 万円
第 17 回日本ゲノム微生物学会若手の会研究会	日本ゲノム微生物学会 若手の会	25 万円
第 64 回分子科学若手の会夏の学校	分子科学若手の会	20 万円
第 5 回数理生物学夏の学校	数理生物学若手の会	25 万円
第 65 回生物物理若手の会夏の学校	生物物理若手の会	25 万円
第 22 回生理学若手サマースクール	日本生理学会若手の会	25 万円
AI 技芸研究会	AI 技芸研究会	17.5 万円

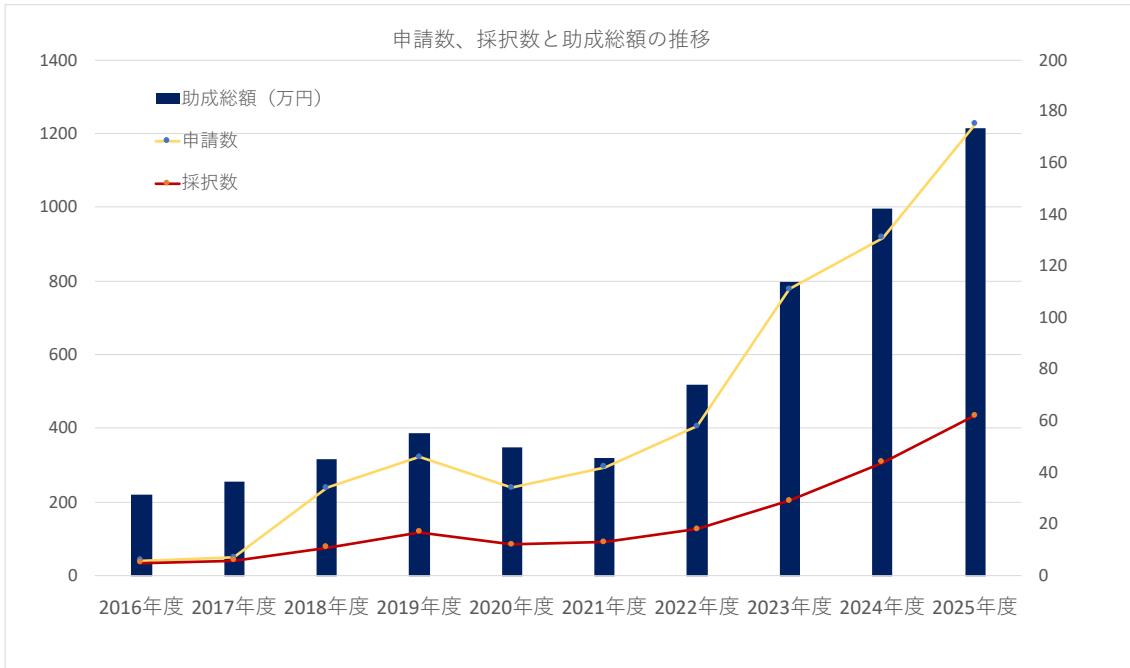
第 18 回国際四肢発生・再生・進化会議 Limb Development and Regeneration: Quantitative, Ecological, and Diversification Studies	国際四肢発生・再生・進化会議大会準備委員会	20 万円
第 8 回次世代生物研究会	次世代生物研究会	20 万円
第 44 回日本マグネシウム学会学術集会	一般社団法人日本マグネシウム学会	17.5 万円
第 31 回農芸化学 Frontiers シンポジウム	公益社団法人日本農芸化学会	20 万円
International Workshop for Young Researchers in ASPL 2025	植物脂質研究会若手の会	20 万円
寄生虫生態学・疫学談話会 第 40 回記念特別会	寄生虫生態学・疫学談話会	17.5 万円
「第 33 回 脳科学若手の会 秋の談話会」、「第 18 回 脳科学若手の会 春の合宿」	脳科学若手の会	20 万円
「屋久島における野生動物の狩猟と捕獲－過去、現在、そして未来にむけて－」	屋久島学ソサエティ	17.5 万円
IcoLL2026	IcoLL2026	20 万円
医学の科学哲学研究会 第二回ワークショップ	医学の科学哲学研究会	25 万円
第 16 回 Society for Tokyo Young Psychologists	Society for Tokyo Young Psychologists	6 万円
蚕糸学会若手の会シンポジウム・ワークショップ 2026	日本蚕糸学会	25 万円
21th International Conference on Social Dilemmas (ICSD2026)	ICSD2026 実行委員会	20 万円
シンポジウム「地震発生機構の解明にむけて」	京都大学防災研究所地震防災部門・京都大学理学研究科地球惑星科学専攻	22 万円
第 3 回 保全生態学 冬の学校 in 豊岡	保全生態学若手の会	20 万円

第3回 素粒子・宇宙・重力と量子センシング研究会 「巨視的量子現象と重力」	神戸大学大学院理学研究科物理学専攻 素粒子宇宙理論研究室	15万円
あなたはなぜ進学を？～経験者に学ぶ、進路の選び方～（仮題）	進化学若手の会	8万円
第11回メソ気象セミナー	メソ気象セミナー事務局	20万円
若手研究者による全国須恵器窯シンポジウムー研究の現状を共有し、未来を探る	愛知県陶磁美術館	17.5万円
第6回有性生殖研究会「多様性と共通性」	第6回有性生殖研究会事務局	20万円
変形・透水試験機設計セミナー2026	変形・透水試験機設計セミナー2026 世話人	20万円
国際研究集会 Cool Stars 23(低温度星国際会議 23)	低温度星国際会議 23 実行委員会	15万円
第12回 ファージ研究会	ファージ研究会	20万円
第78回日本細胞生物学会大会	一般社団法人 日本細胞生物学会	20万円
第58典型元素化学セミナー	東海大学	15万円
第35回神経行動薬理若手研究者の集い	神経行動薬理若手研究者の集い	25万円
フリーラジカルスクール 2026	日本酸化ストレス学会 若手の会	25万円
第5回古籍原本調査研究会	古籍原本調査研究会	15万円
日本地域看護学会第29回学術集会 若手企画（案）失敗のすすめ -失敗の中に希望がある（こともある）-	日本地域看護学会第29回学術集会	15万円
植物科学プレゼンワークショップ 2026「グラフィカルアブストラクトで研究をわかりやすく伝えよう」	植物科学プレゼンテーション研究会	10万円

第 21 回（2026 年）高校環境化学賞ポスターセッション	一般社団法人日本環境化学会	20 万円
第 49 回日本バイオレオロジー学会年会	特定非営利活動法人日本バイオレオロジー学会	20 万円
第 4 回長崎大学環境交流セミナー	長崎大学環境科学部	25 万円
第 60 回有機反応若手の会	有機反応若手の会	25 万円
炭鉱（ヤマ）の話を聞く会 with 台湾 礦工	産炭地研究会	15 万円
第 14 回国際バナジウムシンポジウム	第 14 回国際バナジウムシンポジウム組織委員会	20 万円
第 71 回物性若手夏の学校	「第 71 回物性若手夏の学校」準備局	20 万円
International Conference on Combinatorial Game Theory in Japan	International Conference on Combinatorial Game Theory in Japan Organizing Committee	15 万円
生体関連化学部会若手の会 第 37 回サマースクール	日本化学会 生体関連化学部会 若手の会	15 万円
第一回 免疫学学生の集い コロキウム	免疫学学生の集い	15 万円

会議開催費助成公募状況の推移は次の通りである。

	2021年度 第 7 期	2022年度 第 8 期	2023年度 第 9 期	2024年度 第 10 期	2025年度 第 11 期
申請総数	42件	58件	111件	131件	175件
採択総数	13件	18件	29件	44件	62件
採択率	30.95%	31.03%	26.13%	33.59%	35.43%
助成総額	320万円	519万8000円	798万円	996万円	1216万円



申請件数の増加が続いていること、減額採択しても残金が発生する団体が複数あることから、助成額の上限を2026年1月受付分から30万円に変更した。

C. 創立10周年記念シンポジウム

当財団の設立10周年を記念して、研究費助成公募のこれまでの採択課題について研究発表シンポジウムを下記のとおり開催した。

【開催日時】

2025年11月8日 9:00~18:00 シンポジウム

2025年11月8日 18:00~20:00 懇親会

【会場】

TKP ガーデンシティ京都タワーホテル 八咫 (シンポジウム)

TKP ガーデンシティ京都タワーホテル 飛雲 (懇親会)

【参加者数】

参加者数 84名 (うち発表者数 31名)

【公益充実資金の充当および会計処理の状況】

本シンポジウムの開催にあたり、公益充実資金「創立 10 周年記念シンポジウム積立資金」230 万円を取崩し充当した。また、シンポジウム開催に係る総費用約 330 万円のうち公益充実資金充当額を超える部分（約 100 万円）については、当年度の経常収益より支出した。

なお、シンポジウム後の懇親会に係る飲食費用については、公益目的事業費には含めず、法人会計（管理費）より支出した。

(2) 人材育成部門

A. 理系出身者への法科大学院奨学金（定款第 4 条に定める事業(2)）

多様な学問的背景を持つ法曹の層の厚みは成熟した社会を支える上で重要であり、理系分野の専門知識・技術を持つ法科大学院生へ月額 3 万円を給付する奨学金事業を下記の通り実施した。

【募集期間】

2025 年 4 月 1 日～5 月 12 日

【募集方法】

当財団ウェブページ掲載、ポータルサイト登録（日本学生支援機構、奨学金.net、ガクシー、助成財団センター助成情報ナビ）、全国の法科大学院への周知依頼により募集を行った。

【募集人数】

法科大学院在籍者 4~5 名、次年度進学予定者若干名（予算額 600 万円）

【応募人数】

法科大学院在籍者 20 名

進学予定者 0 名

合計 20 名

【選考方法】

理系出身者への法科大学院奨学金選考要項に従い人材育成選考委員による書類選考（一次選考）を行い、一次選考を通過した応募者 18 名について、2025 年 6 月 8 日に面接を実施し、合議による二次選考で採用者を決定した。

【選考結果】

法科大学院在籍者 9 名採用

【助成総額】

663 万円

採用者は下記の通りである。

所属・学年	理系的背景
東京大学法科大学院 2 年生	都市工学専攻出身
東京都立大学法科大学院 2 年生	食料・環境政策学専攻出身
名古屋大学法科大学院 2 年生	臨床工学専攻出身、臨床工学技士
東京大学法科大学院 1 年生	看護学専攻出身、看護師・保健師
神戸大学法科大学院 1 年生	情報科学専攻出身、博士
京都大学法科大学院 1 年生	歯学部歯学科出身、歯科医師、博士
早稲田大学法科大学院 1 年生	歯学部歯学科出身、歯科医師
大阪大学法科大学院 1 年生	発生物学専攻出身
早稲田大学法科大学院 1 年生	土木工学専攻出身、修士

理系出身者への法科大学院奨学金応募状況の推移は次の通りである。

	2017年度 第 1 期	2018年度第 2 期	2019年度 第 3 期	2020年度 第 4 期	2021年度 第 5 期	2022年度 第 6 期	2023年度 第 7 期	2024年度 第 8 期	2025年度 第 9 期
申請総数	10名	3名	15名	7名	8名	13名	8名	16名	20名
採用総数	5名	2名	8名	3名	5名	8名	3名	11名	9名
採用率	50.0%	66.7%	53.3%	42.8%	62.5%	61.5%	37.5%	68.8%	45.0%
助成総額	135万円	168万円	291万円	351万円	435万円	450万円	441万円	582万円	663万円

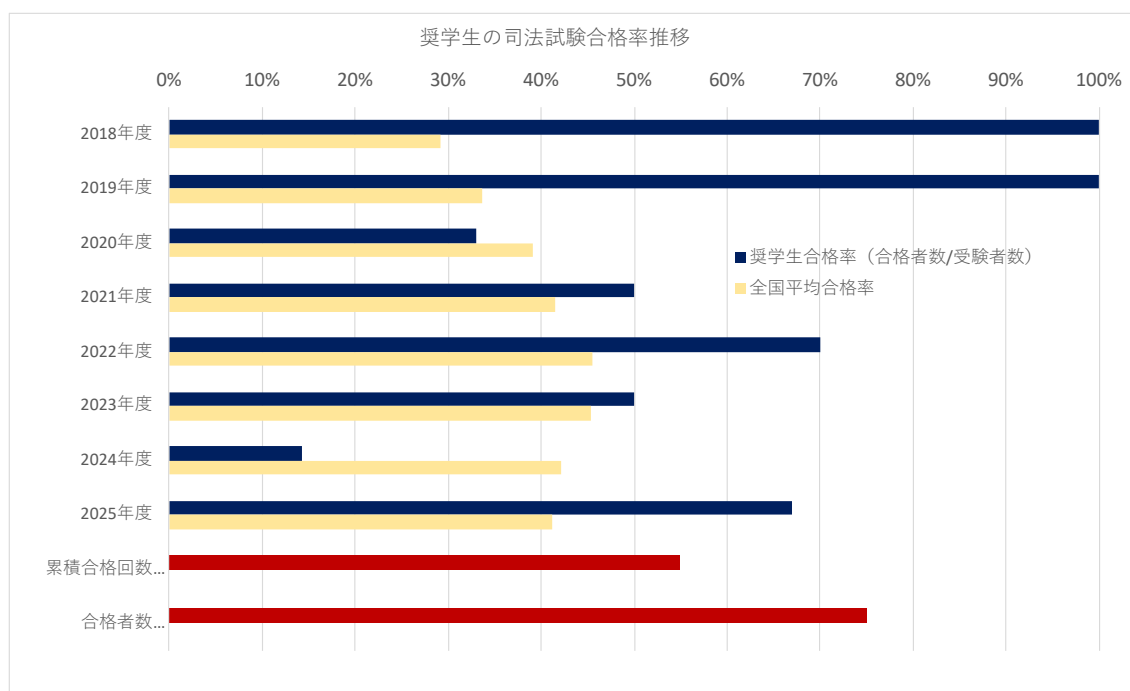
【2025 年度の司法試験合格状況】

6 名合格（うち在学中合格 3 名）

京都大学法科大学院卒業生（医科学専攻、修士）

神戸大学法科大学院卒業生（エネルギー機械工学専攻出身）
 日本大学法科大学院（夜間）卒業生（高分子化学専攻出身、修士、弁理士）
 神戸大学法科大学院3年生（電子工学専攻出身）
 神戸大学法科大学院3年生（電子電気工学専攻出身）
 一橋大学法科大学院3年生（情報工学専攻出身、修士）

本奨学金の奨学生・卒業生の司法試験合格の推移は次の通りである。



【ウェブ相談会】

理系出身者を含む法学純粋未修者の学修支援を目的としたウェブ相談会について、今期は開催を見送った。テーマ設定および講師確保が今後の課題である。

【その他報告事項】

- ・ 2025年度に原級留置であった奨学生3名の学業継続状況については、個別の異動があり、必要に応じて継続的なフォローを行った。
- ・ 2026年度は1名の奨学生が原級留置となった。

B. 困難な状況にある子ども達への学習支援（定款第4条に定める事業(3)）

困難な状況にある子ども達が集う子ども食堂・子どもの居場所に学習支援機能を付与することで、将来の社会及び学術・科学技術の担い手となる人材を育み、社会全体での教育水準の底上げと教育格差の解消に努めることを目的として助成公募を下記の通り実施した。

【公募期間】

2025年10月1日～12月4日

【対象地域】

京都府・大阪府・滋賀県・奈良県・和歌山県

【公募方法】

当財団ウェブページ掲載、対象地域の行政担当部署・社会福祉協議会等への周知依頼、助成財団センター助成情報ナビへの登録により公募を行った。

【募集件数】

10件程度（予算額500万円）

【申請件数】

22件

【選考方法】

困難な状況にある子ども達への学習支援選考要項に従い人材育成選考委員による採点の上、合議制の審査会を2026年1月16日に開催し採択団体を決定した。

【選考結果】

12件採択

【助成総額】

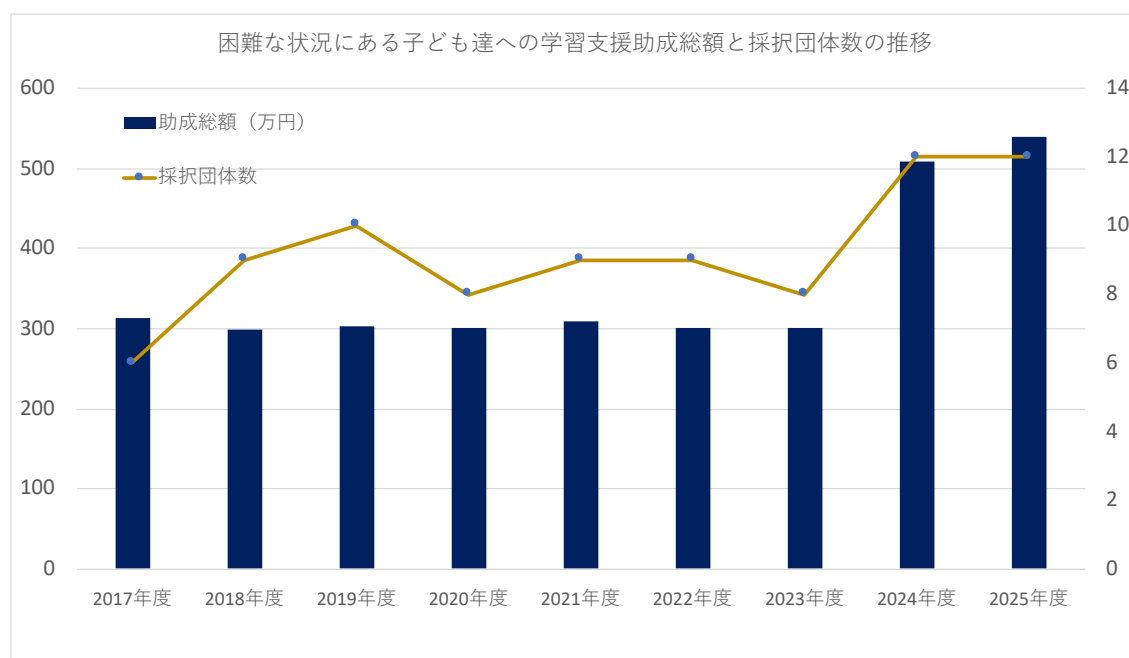
540万円

採択団体は下記の通りである。

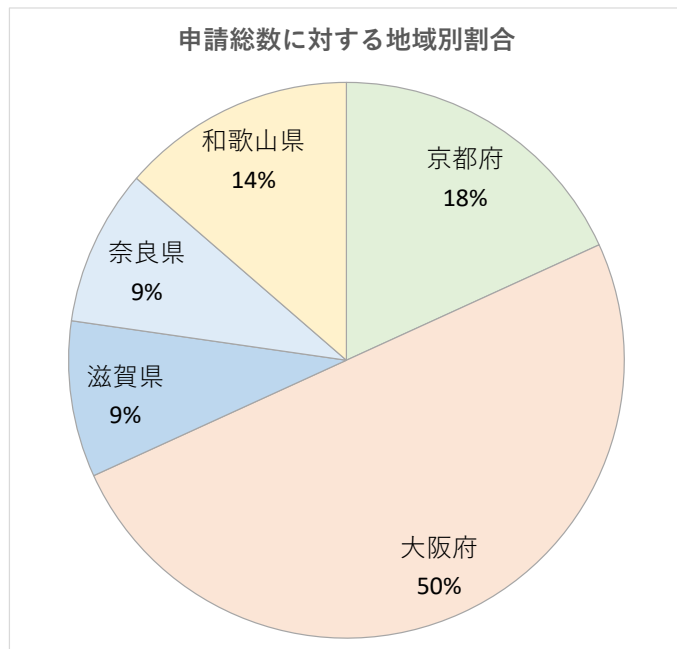
団体名	団体種別	所在地	助成金額
西淀川インターナショナルコミュニティー	任意団体	大阪市淀川区	50万円
Kitchen夢小屋	任意団体	和歌山県和歌山市	50万円
みんなの広場敦賀屋	任意団体	滋賀県大津市	50万円
蒼組	任意団体	大阪市鶴見区	50万円
ちびっと食堂@くらし	任意団体	大阪市阿倍野区	50万円
明日も笑顔	任意団体	京都市上京区	50万円
こども食堂わかやま	NPO法人	和歌山県和歌山市	40万円
じゅげむ	任意団体	大阪府池田市	50万円
醍醐ふれあいスペーストハウス運営委員会	任意団体	京都市伏見区	40万円
みんなでつくる学校とれぶりんか	任意団体	大阪府寝屋川市	40万円
療誠院 みます会 学修スクール	一般社団法人	大阪府河内長野市	40万円
オートランス	一般社団法人	大阪市天王寺区	30万円

困難な状況にある子ども達への学習支援応募状況の推移は次の通りである。

	2017年度 第1期	2018年度 第2期	2019年度 第3期	2020年度 第4期	2021年度 第5期	2022年度 第6期	2023年度 第7期	2024年度 第8期	2025年度 第9期
申請総数	22	27	16	24	26	29	15	28	22
採択総数	6	9	10	8	9	9	8	12	12
採択率	27.27%	33.33%	62.50%	33.33%	34.61%	31.03%	53.33%	42.86%	54.55%
助成総額	312.3万円	299万7000円	302万2500円	300万円	310万円	300万円	300万円	508万円	540万円



2025年度の申請総数に占める大阪府からの申請割合は大きく、申請内容から支援ニーズの高さが伺えた。大阪府の子ども食堂・子どもの居場所については、現在の助成率維持が重要と考えられる。



【その他報告事項】

- ・ 第8期の助成総額508万円のうち、約409万円が学習支援の人件費として使用された（80.5%）。
- ・ 第8期の採択団体1件（任意団体）が、NPO法人格を取得し、長期的に安定した運営体制の構築を達成した。
- ・ 第8期の複数の採択団体から、人件費の支払いにより学習支援にあたる大学生が責任感を持って長期的に参加できるようになったこと、その結果、子ども達と良好な関係が築かれ学習が捗ったこと、子ども達の明るい笑顔が増えたこと、参加者数が増加したことが報告された。他方で、大学生の安定した確保の難しさを報告する団体も複数あった。
- ・ 第8期の複数の採択団体から、外国ルーツの子ども達への支援員が不足していること、支援が必要な言語が多様化していることの報告があった。
- ・ 学習支援にあたった大学研究員（社会学専攻）から、採択団体での活動について関西社会学会大会、日本都市社会学会等で口頭発表があった。
- ・ 和歌山市では、学習支援会場に市議員らの訪問が複数回あり、市内に増える大学生と支援を必要とする子ども達の交流現場の視察の機会が得られた。

(3) 選考委員会

A. 研究奨励選考委員

伊村 智（日本分類学会連合、国立極地研究所副所長・教授）

湯本 貴和（日本生態学会、京都大学名誉教授）

浅見 崇比呂（日本動物学会、信州大学特任教授）

保 智己（日本動物学会、奈良女子大学名誉教授）

伊藤 元己（日本植物学会、東京大学名誉教授）

中辻憲夫（代表理事、京都大学名誉教授）

長谷川博*（理事、東邦大学名誉教授、*委員長）

オブザーバー

藤本 一郎（理事、創知法律事務所代表弁護士）

B. 人材育成選考委員

矢根 俊治（大阪弁護士会、

かがやき総合法律事務所・KAGAYAKI TNY LEGAL (VIETNAM) 弁護士）

植木 和彦（大阪弁護士会、泉佐野法律事務所弁護士）

古家野 彰平（京都弁護士会、古家野法律事務所弁護士）

水町 衣里（大阪大学社会技術共創研究センター准教授、農学博士）

中辻 憲夫（代表理事、京都大学名誉教授、理学博士）

細川 美穂子*（業務執行理事、医学博士、*委員長）

「困難な状況にある子ども達への学習支援」選考担当

山田 礼子（同志社大学社会学部教育文化学科教授）

伊多波 良雄（同志社大学経済学部元教授）

III. 法人の運営体制の充実を図るための取組

- (1) 評議員への理事会資料共有と理事会へのオブザーバー参加について
当法人の運営及び事業実施に関する詳細な情報を評議員にも共有することで、より適切な監視・監督体制を確保し透明性の向上に努めることとした。具体的には、評議員へ定時理事会資料を配布し、理事会へのオブザーバー参加を依頼する運用を、2025年度から開始した。

- (2) 公益法人制度改革に関する勉強会
2026年2月13日に、新公益法人制度に関する勉強会を開催し、理事および監事全員が講義を受けた。財務規律の柔軟化・明確化、行政手続きの簡素化・合理化、ガバナンスの充実・透明性について、説明を受けた。講師は会計顧問が担当した。

IV. 法人運営に関する報告

(1) 重要な事項

- ・ 2025年10月20日に現金300万円の寄付を受けた（氏名非公開の個人から）。
- ・ 2026年1月27日に、当財団事務所の定期貸室賃貸借契約を更新した（共栄実業株式会社との契約）。

(2) 理事会及び評議員会

2025年度は下記の通り実施した。

会議の種類	開催日時	場所	出席者	欠席者	審議事項
定時理事会	2025年5月9日	対面とzoom併用 (京都市中京区堺町 通竹屋町上る橋町92 番地502号室)	理事 4名 監事 1名 オブザーバー 評議員4名	無し	2024年度事業報告の承認の件 2024年度計算書類等の承認の件 理事・評議員選任の件 定時評議員会招集の件 資産運用対象の選定と承認の件 2025年度選考委員選任の件 評議員報酬規程、役員等旅費規程、謝金規程改訂の件 2024年度監査報告の件 その他執行状況の報告
理事会	2025年5月29日	書面決議	理事 4名 監事 1名	無し	会議開催費助成公募5月採択団体の承認の件
理事会	2025年5月30日	書面決議	理事 4名 監事 1名	無し	理系出身者への法科大学院奨学金の一次選考通過者決定の件
理事会	2025年6月8日	書面決議	理事 4名 監事 1名	無し	理系出身者への法科大学院奨学金の採用者決定の件
理事会	2025年6月29日	書面決議	理事 4名 監事 1名	無し	資産運用対象の選定と承認の件 新たな資産運用対象の配賦割合の承認の件
理事会	2025年7月13日	書面決議	理事 4名 監事 1名	無し	研究費助成公募採択課題決定の件
理事会	2025年9月24日	書面決議	理事 4名 監事 1名	無し	会議開催費助成公募9月選考の採択団体決定の件
理事会	2026年1月17日	書面決議	理事 4名 監事 1名	無し	困難な状況にある子ども達への学習支援採択団体決定の件
理事会	2026年1月28日	書面決議	理事 4名 監事 1名	無し	会議開催費助成公募1月選考の採択団体決定の件
定時理事会	2026年3月3日	対面 (京都市中京区堺町 通竹屋町上る橋町92 番地502号室)	理事 4名 監事 1名 オブザーバー 評議員4名	無し	2026年度事業計画書承認の件 2026年度収支予算案承認の件 2026年度資金調達及び設備投資の見込み無し承認の件 規程改訂の件(特定費用準備資金等取扱規則) その他執行状況の報告
会議の種類	開催日時	場所	出席者	欠席者	審議事項
定時評議員会	2025年5月24日	対面とzoom併用 (京都市中京区堺町 通竹屋町上る橋町92 番地502号室)	評議員 8名 理事 4名 監事 1名	無し	2024年度計算書類等の承認の件 理事・評議員の選任の件 評議員報酬規程改訂の件 2024年度事業報告の件 2025年度収支予算・事業計画の報告の件

(3) その他報告事項

業務執行理事が次のセミナーを受講し、公益法人の制度改革に関する情報収集と対応に努めた。

- 2025年7月16日、日本公認会計士協会非営利組織会計検討会主催セミナー「人口減少社会における非営利組織の役割～サステイナブルな組織を目指して～」
- 2025年7月23日、公益財団法人公益法人協会セミナー「公益法人制度運営の基礎と公益法人制度改正等のポイント」
- 2025年9月8日、公益財団法人公益法人協会セミナー「公益法人会計実務編」

V. 収支及び正味財産増減の状況並びに財産状態の推移

別添参照。

VI. 事業報告の附属明細書

2025 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書については、事業報告の内容を補足する事項が存在しないことから作成していない。